

# マッスルスーツ導入効果

## (1) 事業所が抱える課題

介護職員9名が腰痛保持者である。様々な福祉用具の導入は行っているが、中腰姿勢を維持した排泄介護や体位変換等の介護支援、荷物の搬入（介護用品等）や洗濯業務で腰に負担が掛かる状況があり、腰痛のリスクがある。また、腰痛が原因となり、夜勤勤務ができなくなり離職する職員もいた。

## (2) ロボット機器等を導入した業務内容（概要）

移乗介助以外にも排泄介助や体位変換等の介助の場面、荷物の搬入やご利用者の居室の整理（荷物の移動）、洗濯業務にマッスルスーツを導入し職員の腰への負担軽減を図る。



## (3) ロボット機器等の導入により得られた効果

入浴介助で2台使用した場合には、着脱介助時や洗体介助時に腰への負担軽減につながりスムーズに支援が行えるようになった。また、荷物の搬入時の使用や段ボールから紙パンツ等を棚に出す時にも腰への負担軽減につながった。

ご利用者の移乗(トランスファー)(2人介助)する際には、マッスルスーツを着用した職員と、着用していなかった職員では腰への負担の違いが大きく見られた。また、オムツ交換時に起こる中腰姿勢の継続が腰痛の原因の一つになるため、装着時には背筋を伸ばした姿勢を意識できるようになったことから身体的負担の軽減と慢性的な腰痛の予防につながると考えられる。

## (4) 今後の課題

現在、腰痛保持者がいる中、今後も高齢の職員も多くなる予定である。様々な福祉用具の導入は行っているが、中腰姿勢を維持した排泄介護や体位変換等の介護支援、洗濯業務で腰に負担が掛かる状況があり、引き続き腰痛のリスク対策としてロボット機器等を有効に活用していかなければならない。

事業所としては、福祉機器等を積極的に導入していくことで腰痛が原因で離職する職員を防ぐとともに、職員一人ひとりがロボット機器等を活用して腰痛予防対策の周知啓発活動に取り組むことが必要である。